令和５年度　学校評価書

東温市立南吉井小学校

令和6年1月12日

1　学校教育目標　　よく学び、心豊かにたくましく生きる児童の育成

2　経営の基本方針　　「伸びる」を合い言葉に、確かな教育活動を実践し、確かな学力の定着を図るとともに、保護者との信頼の絆を強め安全安心な学校づくりを推進する。

評価領域	評価項目	評価の観点	評価（1～4） 教職員	児童	保護者	考察及び改善方策　○成果　●課題、取り組み	学校関係者評価委員の評価
生徒指導	いじめ･不登校等への対応	いじめや不登校の兆しを早期に把握するとともに、児童や保護者の思いに寄り添い、適切な相談や支援・指導に努めている。	3.62	3.63	3.12	○いじめについては、早期発見・積極的認知に努めるとともに、問題の早期解決のために情報を共有し、生徒指導主事を中心として組織的な対応に努めた。重大事案につながるような深刻ないじめは発生していない。今後もいじめを生まない風土の醸成に努める。 ●不登校や不登校傾向児童への対応も組織的に行ってきているが、根本的な解決には至っていない。関係機関や地域・家庭との連絡を密に取り、よりよい支援を行い解決を目指す。 ●基本的な生活習慣の定着を図るには、家庭の協力が欠かせない。各学級担任による児童への指導と併せて、学年だより・保健だより等で家庭への啓発をする。	・３番目の項目の児童の評価が低く、人間関係に不安感があるかもしれないが、１番目の項目の評価が高いので、教職員の対応には安心感があるようだ。対応している内容を保護者にもっと知らせるとよいのではないだろうか。 ・いじめの早期発見、認知により大きい事案になる前に対策が打てている。
	基本的生活習慣の定着	「早寝・早起き・朝ごはん」や歯磨きの習慣化や身の回りの整頓など、基本的生活習慣が身に付くよう指導に取り組んでいる。	3.47	3.39	2.97		
	いじめをしない・許さない人間づくり	いじめを身近な問題と捉え、自分の行動を振り返るとともに、相手の立場に立った言動のできる児童の育成に努めている。	3.73	3.21	3.44		
確かな学力を育てる教育	基礎･基本の定着	**「えひめ学びの森」や「ｅライブラリ」の活用や「まなびの時間」、「算数教室」の充実を図り、基礎的・基本的な技能や知識の定着を図っている。**	3.21	3.59	3.10	○児童同士の対話を中心にした授業づくりを行った。児童同士の対話を進めることにより、意見を練り合い・高め合う授業公開を行い、研修を進めた。学年部や学年団など、組織として授業づくりに取り組み、高め合い、分かる授業づくりに努めた。 ○１人１台端末を活用して、学校や家庭で自主的に学習ができる環境が整っている。また、欠席した児童へは、ロイロノートを活用して授業の板書やプリントなどを配布している。 ●１人１台端末の活用方法についてさらに検討し、児童一人一人のニーズに対応した学習に活用していく必要がある。	・リアルな対話を通したコミュニケーション能力の育成は、今後学校が果たす役割がますます大きくなってくると思われるので、そのような機会を今後も設けていただきたい。 オンライン等を活用した授業を取り入れる学校づくりも考えては。 ・確かな学力に関しては、子ども自身の「伝え合う力」の評価が上がるとよいと思う。子どもが「対話している」と実感できる機会を増やすとよい。
	家庭学習の充実	学年の発達段階に応じた家庭学習が行えるよう、学習の内容や方法、時間などについて具体的に指導するなど、学習習慣の育成に努めている。	3.50	3.33	3.04		
	伝え合う力の育成	授業において練り合い・高め合いの場を効果的に設定することにより、自分の考えをもち、他者と豊かにかかわり合い、伝え合う力の育成に努めている。	3.42	3.19	3.12		
豊かな心、健やかな体を育てる教育	道徳教育の充実	道徳の時間はもとより、全教育活動を通して、主体的に考え、自分自身や他者と対話しながら、よりよく生きることについて考える機会をつくるなど、道徳教育の充実に努めている。	3.43	3.59	3.28	○支持的な雰囲気のある学級、学校づくりを教職員一人一人が意識して行った。学級全体、学校全体で児童一人一人のよさを認めたり、一人一人の違いを受け入れたりすることで、優しい児童が育っている。 ○栄養教諭の積極的な取組により、地産地消など食に対して児童の関心が高まった。 ●新体力テストの結果が全国平均より劣る。体力面での二極化も見られ、体力や運動技能の低下が懸念される。今後も、体育科の授業や体育的行事で、運動への興味・関心と体力の向上を図る。 ●すべての児童が体を動かしたり、屋外で遊んだりすることを好み、励んでいるとは言えない。今後も、体を動かすことを苦手としている児童にも教師が声を掛けたり、一緒に屋外で遊んだりすることを継続していく。	・基礎体力をつけることは大切である。今後も継続してほしい。 ・「食育」に関してはすばらしい取組だと思う。児童みんなが理解して地産地消のありがたみを実感してほしい。 ・共働きの家庭が多いため、子どもたちの食事も好き嫌いが多くなっているのではないかと心配する。もっと家庭で子どもの「食」について考えてほしい。
	仲間づくり 集団づくり	**互いに助け合い、よさを認め合うような支持的風土を培うことにより、認め合い、励まし合い、高め合う仲間づくりに努めている。**	3.58	3.63	3.30		
	健康づくり 体力つくり	体育の時間を充実させたり外遊びを奨励したりすることで体力の保持増進に努めている。	3.53	3.20	3.21		
	粘り強くやり通す態度の育成	活動のねらいを明確にし、自分のめあてをもたせ、最後まで粘り強くやり通す態度の育成に努めている。	3.52	3.68	3.03		
	食育の推進	栄養教諭と連携して、日々の給食指導を充実させ、「食」についての学習に取り組み、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けさせるように努めている。	3.76	3.50	3.13		
特別支援教育	特別支援教育の充実	教育相談を実施し、多面的な児童理解に努めている。	3.53	3.73	3.22	●保護者の児童一人一人への対応や通級指導教室へのニーズが多様化している。個に応じた指導を行い効果を上げているが、通級を希望する児童が増加している。	・保護者への啓発が進み、個に応じた取組の充実が進んでいると感じる。
安全・安心な教育環境の整備	登下校の安全確保	家庭や地域と連携して安全に登下校をさせることなど、安全指導の充実を図っている。	3.35	3.68	3.49	○登下校については、保護者・地域の方の協力を得て、安全に実施できている。下校時は、道路に広がることもあり、今後指導に努めていく。田窪地区の通学路については、３月から一部変更予定である。 ○避難訓練等を通して、児童の安全への意識を高めることができた。防災や安全に対する児童の意識は高いと言える。今後も継続して防災教育や安全教育に取り組んでいきたい。学校で取り組んでいる防災教育についてホームページ等により、家庭へいっそう周知していく。 ●今後スマートインターの開設に伴い、交通量の増加が懸念される。児童の交通安全については家庭・地域との情報交換を密にしていく。	・スマートインターの開通に伴い、交通事情の変化が予想されるので、引き続き、家庭や地域と連携して安全教育を進めていただきたい。 ・安全意識について子どもも保護者も評価が高く、日頃の取組の成果と思われる。防災教育について子どもは評価が高いので、保護者に知らせて、より安心感を持ってもらえるとよい。 ・自転車に乗る際、ヘルメットを被っている児童をたくさん見かける。ただ、中には危険な運転をしている児童もいるます。交通ルールを守る意識に少し課題があるのかと思う。
	防災教育の充実	教職員研修や避難訓練、学級活動での指導等による防災教育を進め、災害時に自ら判断し行動できる児童の育成を図っている。	3.44	3.79	3.29		
	安全意識の高揚と自己管理能力の育成	児童や保護者に折に触れてヘルメットの着用をはじめとする交通安全について啓発し、交通事故の防止に努めている。	3.58	3.93	3.90		
	施設・設備の安全管理	安全点検等による潜在危険箇所の早期発見と除去に努めている。	3.50		3.19		
家庭・地域との連携	開かれた学校づくりとｺﾐｭﾆﾃｨ･ｽｸｰﾙの推進	学習のねらいに即して、地域の人材や専門家、協力機関等を積極的に活用し、地域とともに児童を育む学校づくりに努めている。	3.26		3.19	○運動会や校内マラソン大会、参観日などの行事を実施するに当たり、保護者の理解と協力を得られた。 ○今年度は、１０月に１年生の生活科「昔の遊び・秋のおもちゃづくり」に地域の方の協力を得て活動できた。また、５年生の家庭科「エプロンづくり」の際、ミシンの使い方について協力を得た。	・地域の方の協力は大変貴重だと思う。関わっていただいた方に感謝する。 ・一つに地域だけでなく、南吉井校区全体を取り込んだ取組が必要。もっと地域の方が学校に関わるような関係になってほしい。
	情報の共有化	児童の様子について積極的に家庭と連絡を取り合ったり、学校の教育方針や教育活動等についてホームページや学校だより等を活用して情報の共有化に努めている。	3.56	3.54	3.06		
特色ある学校づくり	ふるさと学習の推進	学年の発達段階に応じて、地域の人・自然・文化を生かした「よしいの」ふるさと学習の推進に努めている。	3.23	3.38	3.12	○運営委員を中心にして、朝の挨拶運動を推進し、校内では気持ちのよい挨拶をする児童が増えている。 ○校内マラソン大会や業間マラソン、各学年の縄跳び大会を通じて、児童の意欲や最後までやり抜く態度や意識を高めることができた。縦割り遊び「あそぶデー」を楽しみにしている児童が多くいる。児童に仲間意識や所属感を味わわせることができた。 ●登下校中などの地域の方への挨拶についても、「あいさつ日本一の学校」をめざし、気持ちのよい挨拶ができるように、今後も繰り返し指導・啓発していく。	・地域との協働がコロナ禍以前より進み、地域とともにある教育が戻りつつあると感じる。 ・挨拶はよくできている。挨拶はする子どもとしない子どもの差があると感じるときがある。
	挨拶運動	全教育活動を通して、気持ちのよい挨拶や会釈、返事の定着を図っている。	3.56	3.72	3.15		
	チャレンジする精神の育成	**運動会等の学校行事や委員会活動等、何事にも積極的に取り組もうとする児童の育成に努めている。**	3.70	3.71	3.01		
施設・設備の充実	ＩＣＴの有効活用	ＩＣＴを効果的に活用した指導方法の工夫・改善により、児童一人一人の特性に応じた学習指導の充実を図り、児童が主体的に学ぶ環境を整えるよう努めている。	3.63	3.70	3.27	○デジタル教科書や、黒板に投影できるプロジェクターの設置で、授業を効率よく進めることができる。タブレットの活用も進められ、児童の学習意欲や理解力の向上を図ることができた。 ●タブレットの効果的な活用については、今後も研修を積み、教職員の指導技術を向上させる必要がある。	・タブレットの他にも、紙媒体や会話によるやりとりをすることを大切にしてほしい。 ・総じて保護者の評価が低いのは、保護者の望むことが現状よりも高いことと、学校の取組を知らないことが要因と思われる。機会を捉えて情報発信するとよい。
	学習・生活環境充実への取組	校内・教室内における学習用具の整理・整頓や作品の掲示や展示の工夫など、児童一人一人の思いや努力を大切にした潤いのある環境づくりに努めている。	3.39	3.57	3.32		